

5292

秘

14

戰鬪詳報第參號

秘

明治三十七年  
三月十日 旅順港砲擊戰鬪詳報

軍艦敷



0152

93

明治三十七年三月十日旅順港砲撃戦闘詳報

天候風候 天候終日平穩午前ハ快晴ナリ午後ニ至リ曇天トナリ且ツ霧氣アリ

風向ハ南西乃至南微東ニシテ力一乃至二ニ過キス晴雨計三〇、二三乃至二九、九。

間ヲ昇降シ温度四十乃至四十五度ヲ示ス

本艦ハ旗艦ニ隨ヒ別紙附圖ノ如ク豫定航路ヲ執リ午前六時三十分老鉄山燈台ノ

正面約三十七哩ノ所ニ達シ北坂西ニ變針老鉄山ニ向ヒ午前七時三十分戦闘部署ニ就カ

シム

午前八時五分 駆逐隊ノ負傷者収容ノ為メ旗信ニ依リ漂泊ス

今 八時四十分 第一小隊ト分離シ本艦ハ第二小隊旗艦初瀬ノ信号ニ依リ逆列單

縦陣トナリ(卜初瀬敷島八島)其通跡ニ從ヒ老鉄山下ニ向フ

今 八時四十五分 関巨高トナル

今 八時五十分 檣樓ニ將校見張ヲ出シテ敷設水雷及其他ニ注意セム

海軍

午前八時五十五分 黄金山ヨリ發砲スルヲ見ル

今九時三十五分 旅順港口右側ニ四本烟突ノ敵艦(バーヤン)静止スル者ノ如シ  
其右ニ「イビツク」アルヲ見ル東雲本艦側ニ來リ今朝敵駆逐艦ト會戦ノ事ヲ  
報知ス

今九時五十二分 半速六節トナス

今九時五十三分 間接射撃豫定地点ニ近キ旗艦初瀬ニ働ヒ戦鬪旗ヲ閉ク

今九時五十四分 十二斤以下ノ砲負ヲ下甲板第六區ニ下ラシム今時本艦速力七哩  
風力ニヲ令ス

今九時五十五分 敵艦「バーヤン」港内ニ入ルモノ、如ク見ユ

今九時五十八分 「イビツク」我第四戦隊ニ向ケ發砲スルヲ見ル

今十時二分 「バーヤン」復タ出テ來ル針路東ニ向フ

今十時七分 本艦速力六哩

今十時九分 豫定地点(附圖A点)ニ進ミ老鉄山南麓ノ海岸ニアル家屋ニ向テ

5494

照準シ旅順港ニ對シ間接射撃ノ為メ初瀬ヨリ發砲ヲ始ム

全時 一万二千五百 並ニ打テ

全十時十二分 本艦初テ發砲ス(一万二千五百)

全時 一万二千四百ヲ令ス

全十時十三分 一万二千三百

全十時十四分 一万二千二百

全十時十五分 附圖B点ニ至リ「打方待テ」此一回轉ノ間ニ前部砲塔四發后部砲塔

二發ヲ發射ス旗艦初瀬ニ從ヒ右舷ニ回轉<sup>頭</sup>旋迴運動ヲ行ヒ再ヒ原發射位置ニ向

全十時二十八分 本艦速力七浬

全十時二十九分 一万二千五百

全十時三十六分 並ニ打テ直ニ第二回ノ發砲ヲナス

全十時三十七分 一万二千四百

全十時三十七分 一万二千四百



午前十時三十八分 一万二千三百

今 十時三十九分 一万二千三百

今 十時四十分 一万二千三百

今 十時四十分 「打方待ラ」此第三面ノ間ニ前後砲塔各四発ヲ發射ス今時右舷ニ

回頭旋迴ス

今 十時二分 本艦速力八浬十二斤以下ノ砲負ヲ上甲板ニ上ク

今 十時四分 「一万二千五百」並ニ打方ノ令ヲ下ス直ニ第三回發砲ヲ始ム

今 十時五分 「一万二千三百」

今 十時六分 「一万二千二百」

今 十時七分 「一万二千三百」

今 十時八分 「打方待ラ」此第三面ノ間ノ前後砲塔各二發ツ、發射セリ

今 十時八分 微速力トナス

今 十時三十分 敵彈本艦ノ左舷後方ニ落ツ

98

全十一時二十二分 本艦速力四哩

全十一時二十八分 本艦速力ナシ之ヨリ本艦ハ初瀬ノ射撃ヲ終ルヲ待チ然ル後

豫定發射地点ニ導キ艦首ヲ西方ニ向ケ停止ス

午後〇時一分 一万二千七百(並ニ打テ)直ニ第四回發砲ヲ始ム

全 〇時四分 一万二千五百

全 〇時八分 指定ノ弾數ヲ發射シ終ル

全 〇時九分 打方止メ此四回ニ前部砲塔六發后部砲塔八發ヲ發射ス今時半

速力トナシ初瀬ノ通跡ニ從フ

全 〇時十二分 閑散ヲ命シ食事ニ就カシム

全 〇時三十五分 第一小隊射撃ヲ開始ス其間第二小隊ハ附近ヲ徘徊ス

全 二時十五分 將校ノ檣樓見張ヲ撤ス

全 二時三十五分 第一小隊射撃終リ旗信ニヨリ原速力ヲ十三海里トシ針路ヲ東

三南ニ定メ港口ヲ引揚ケ漸次第四集合地点ニ向フ

0157

此砲撃ノ結果ハ本艦ヨリ見ルヲ得タ下魚氏千歳ノ監的ニ依ルトキハ非常ノ効果ア 射撃ノ結果	備考砲具故障ナシ 鍛甲榴弾 二十発	徹甲榴弾 十二発	總計	今 左砲 二	右部砲塔右砲 四	今 左砲 三	前部砲塔右砲 三	砲種及番号 徹甲榴弾	發射弾數
				六	四	五	五	鍛鋼榴弾	
				八	八	八	八	合計	

0158

0696

リシ者ノ如シ

汽力汽機回轉數及速力

此戰闘中汽機回轉數ハ二十六ヨリ五十二回轉(此回轉數ニ對スル速力四乃至八二節)ノ間ヲ上下シ機関ノ状態極メテ良好ナリ

重ナル需品ノ消耗

英炭 二八八八噸

内部油 三四律

外部油 七九律

右ハ午前八時ヨリ午後四時ニ至ル八時間ノ消費高ヲ計上シタルモノトス

電報信号命令及訓令

午時分	初瀬	本艦	艦尾燈ニ注意セラレタレ	文
前	〇一〇	初瀬	本艦	艦尾燈ニ注意セラレタレ
全	七一五	全	旗艦ノ外直ナニ無線電信機ヲ水線下ニ収メヨ	
全	七一五	全	旗艦ノ外直ナニ無線電信機ヲ水線下ニ収メヨ	
全	七一五	全	旗艦ノ外直ナニ無線電信機ヲ水線下ニ収メヨ	
全	七一五	全	旗艦ノ外直ナニ無線電信機ヲ水線下ニ収メヨ	
全	八一〇	旗艦	艦隊漂泊セヨ	
全	八一三	三笠	本隊ハ駆逐隊ノ重傷者收容ノ為メ停止セリ	
全	八一五	旗艦	艦隊ノ重傷者收容	
全	八一七	千歳	第三駆逐隊先程ヨリ敵ヲ駆逐隊一隻ト砲戦中敵ヲ破壊	
全	八一四	初瀬	第弐隊逆番号縦陣制	
全	八一四	初瀬	第弐隊逆番号縦陣制	
全	八一四	初瀬	第弐隊逆番号縦陣制	

0160

97

八四四 全	関距離ニ備ヘ
八一四八 三笠	老鉄山方ニ全速ニテ進ミ敵ノ駆逐艦ヲ攻撃セヨ(電報)
八一五五 初旗艦	檣樓ニ將校見張ヲ配置セヨ
九一〇〇 三笠	浪速 敵出テ來ラハ本隊ニ誘致セヨ(電報)
九一〇〇 全	初瀬 敵出テ來ラハ本隊ニ誘致セヨ(電報)
全	水艦 初瀬 此隊カ先キニ間接射撃ヲ為スヤ(答)然リ
九一二十 十歲	三笠 第三駆逐隊敵ノ駆逐艦一隻捕獲セリ(以下敵艦妨害(電報))
九一二十五 十歲	三笠 偵察ニ出セリノビツク灣口ヲ出ツ(電報)
九一三〇 高砂	各艦 吾レ鳩灣偵察ニ赴ク
九一三三 東雲	各艦 敵アリ 今朝敵ノ駆逐艦二隻ニ遇ヒ一隻ヲ撃破セリ今 港口ニイヴイツク現ハル
九一四五 浪速	三笠 吾レ三山島ノ砲撃ノ任務ニ就ク宜敷ヤ(電報)
谷	宜シ(此時又敵艦妨害シ混信シ前後ノ信文不明)

59/88

<p>前九一五五 初旗 頼 隊 回轉信号ニ注意セヨ</p>	<p>全一〇一〇〇 全 本艦 信号ニ注意セヨ</p>	<p>全全 三笠 浪速 第一駆逐隊今朝四時頃敵ヲシキ駆逐艦六七隻ト猛戦シ敵 一隻ヲ轟沈シ又大ナル損害ヲ敵ニ加エタリ霞ハ被害アルモ 尚交戦ノ速力ニ耐ヘ右駆逐隊ハ龍田ヲ護衛トシテ第三(?) 集合地<sup>ハ</sup>飯<sup>ラ</sup>シム(電報)</p>	<p>全一〇一〇一六 浪速 三笠 ノビック<sup>ハ</sup>バーヤン<sup>ニ</sup>出テ來ル(電報)</p>	<p>全一〇一〇一三〇 千歳 三笠 弾着<sup>一</sup>発<sup>ニ</sup>付<sup>テ</sup>近<sup>ク</sup>……アムル<sup>ノ</sup>附近<sup>ニ</sup>……弾着<sup>四</sup>思<sup>フ</sup>(混消)(電報)</p>	<p>全一〇一〇一三五 初瀨 本艦 駆逐艦ノ手旗信号何ナルヤ</p>	<p>(答)今朝敵ノ駆逐艦ニ隻ニ遇ヒテ一隻ヲ撃破セリ、今港口ニ ノダイツク<sup>ク</sup>現<sup>レ</sup>タリ</p>	<p>全一〇一〇一四五 千歳 三笠 連ノ捕獲セル駆逐艦ハ沈没セリ(電報)</p>	<p>全一〇一〇一五五 三笠 初瀨 彈着良ナリ(電報)</p>
---	--	---	---	---	--	--	--	---

0162

56 98

全 〇一五 初瀬 司令官	后 〇一〇 本艦		全 二一五 本艦	全 二一五 千歳	全 二一三 初瀬	全 二一三 初瀬	全 二一五 初瀬	全 二一〇 初瀬		全 二一五 全	全 二一六 千歳	全 一〇一 五八
三笠	旗艦		初瀬	初瀬	本艦	本艦	本艦	本艦	本艦	全	三笠	第1隊
艦隊射撃、黄金山ヨリ、 （妨害セラレ混信）（電報）	石炭現量一〇六三噸、病負二名	西ノ碇泊場ニ黒煙上ル	千歳ヨリ貴艦ヘノ電報	西ノ碇泊場ヨリ黒煙上ル（電報）	本艦ハ後退ス	此ニテ止ムル積リ、付可成射撃シ終ル様為セ	本艦ハ停止シテ射撃ヲ為セリ	黄金山ヨリ本隊ヲ狙撃シ、アリ可成東方ニ出デヌ様注意セヨ	航海、差支エナシ（電報）	連ノ損害ハ「ゲーシング」ヲ「ナムニ」其他船体ノ上部ニシテアレバ戦闘	連ニ戦死一員、傷一捕虜、四常磐ニ移セリ（電報）	一門ニ四発ヲ増加セヨ

0163



全 二一五	全 二一〇	全 二一六	全 一四二	全 一四〇	全 一〇	全 一〇	全 一〇〇	全 〇一四五	全 〇一三五	后 〇一三〇		
旗艦	初瀬	旗艦	初瀬	初瀬	初瀬	初瀬	初瀬	初瀬	初瀬	旗艦		
第壹隊	第壹隊	第壹隊	第壹隊	第壹隊	第壹隊	第壹隊	第壹隊	第壹隊	第壹隊	第壹隊		
桶櫓ノ將校見張ヲ撤セヨ	田島ノ南十海里ノ地点ニ本隊ヲ待テ(電報)	火災起レリ港内敵艦附近ヨリモ盛ニ黒煙ヲ上ケタリ(電報)	今迄ノ射撃……………港外ニ四其外見エス龍虎尾ノ内方ニテ所	チムニールノ現ハシ居レリ	鳩湾ニ乗セ上ゲ居リシ駆逐艦ハ居リシヤ	彈着不明……………良好ナルモノノ如シ(電報)	原速幾何ナリヤ (答)十哩	テ進ソ	本日午後一時ニハ位置信号及ヒ時辰ノ整合ヲ行ハス、微速力ニ	只今ヨリ半速力ニテ此附近ヲ徘徊ス	旗艦ノ通跡ヲ進ソ	列外ニ出ヨ

29 79

全 三 一 三 〇	全 三 一 二 〇	全 全	全 全	全 三 一 五	全 三 一 二	全 二 一 五 三	全 二 一 四 五	全 二 一 三 五	全 二 一 三	全 二 一 八
旗艦兼隊	千歳三笠	朝日全	初瀬全	木艦各艦	旗艦各艦	笠千歳	全	各艦	旗艦兼隊	初瀬三笠
彈種ヲ區別シ消費彈數ヲ報セヨ	起ル(電報)	吾レ故障ヲ生ス	吾レ故障ナシ	吾レ故障ナシ	大砲發射ノ為ニ故障ヲ生セシヤ	山島ノ南十海里ノ地点ニ本隊ヲ待テ電報	順番号單縱陣、針路東 <sup>三四</sup> 南	原速力十三節	無線電信機ヲ水線上ニ出セ	黄金山下堤砲臺附近ニ二三着彈スルヲ見ル(電報)
	虎尾ノ内方ニ五、港外ニ四、其外見エヌ龍虎尾ノ内方ニテ所ニ火災	午後ノ彈着黄金山附近ニ六、港ノ中央ニ五、停車場附近ニ三、龍								

0165

後	三〇五二	本艦各艦	吾レ徹甲榴弾十二發、鍍鋼榴弾二十發
全	四〇〇	千歲三笠	曙、連ノ負傷者ハ一水一機関兵二兩名共重傷亦連ノ………混信
全	四一三〇	旗艦	通シテ何事モ分ラス(電報)
全	四一三〇	旗艦	吾隊ノ救助ヲ要スルヤ浪速、浪速吾カ隊ノ救助ヲ要スルヤ(電報)
全	四一三〇	旗艦	軍事点檢取止ハ
全	五一九	三笠浪速	第三駆逐隊ハ其隊ノ傍ニ在ルヤ(電報)
全	五一〇	旗艦	今夜ニ直艦内哨兵ヲ配置シ警戒セヨ正子ヨリ四直哨兵今朝駆逐隊勇戦概略
			第一駆逐隊ハ十前四時半頃老鉄山ノ南ニ於テ敵ノ駆逐艦三四隻ト遭遇シ五十米突ニ迫リタル激戦ノ結果敵ニ多大ノ損害ヲ與ヘ其一艦ヲ撃沈セリ第三駆逐隊ハ七時頃ニ敵ノ駆逐艦二隻ノ

60 100

今 五―一七	今 五―一三	今 五―一五〇	今 五―一四六	今 六―一五	今 六―一五	今 六―一五
浪連	三笠	旗艦	千早	初瀬	初瀬	初瀬
三笠	浪連	三笠	三笠	三笠	三笠	三笠
湊ヲ出スヲ得(電信)	今迄見エ居リシモ最早見エス第三駆逐隊司令ヨリ損傷ヲ受ケタル艦アリ天候ノ悪シクナラヌ内第二集合点ニ行ク(電報)	其隊ハ今何レノ位置ニアルヤ(電報)	艦隊ノ速力ニ増減アリシキハ其速力時刻ヲ知ラサレタシ(電報)	午後六時ヨリ原速十節	針路南五十九度東	本日間接射撃中初瀬ハ一万三千敷島ハ一万二千乃至一万二千五百八島ハ一万三千五百亦ハ一万四千ノ照尺ヲ用ヒタリ(電報)
<p>沖ヨリ旅順口ニ逃ケ來ル要撃シ其一艦ヲ捕獲シタルモ波高キ尙ノ遂ニ沈没又敵ノ數名ヲ捕虜トシ常磐ニ收容セリ我隊ノ死傷ハ戦死八名負傷者十名船体毀損ハ十二斤砲一門切断發電機室ボイラールーム貫通等重ナルモノシテ霞ハ速力ヲ減セシモ尙十</p>						

0167

今 六 一 五 〇	浪速 三 笠	白雲ノ事ニ就キ龍田ノ電信受取ラレシヤ(電報)
今 六 一 五 三	浪速 三 笠	谷分リマシタ(電報)
今 六 一 五 六	浪速 三 笠	西京丸ニ命令ヲ傳エシムル為メ今ヨリ新高ヲ第四集合点ニ派遣 セシム
今 七 一 〇	三笠 龍田	第一駆逐隊ニ傳ヘヨ西京丸ハ明日第四集合点ニ來ル客ナリ死 傷者ヲ同船ニテ佐世保ニ送レ(電報)
今 七 一 三	初瀬 三笠	本日ノ間接射撃中初瀬ハ一万三千敷島ハ一万二千乃至一万二千五 百八島ハ一万三千五百又ハ一万四千ノ照尺ヲ用ヒタリ(電報)
今 七 一 五	三笠 常磐	午後二時頃本艦ハ何カ電報打タサルヤ
後 六 一 五	三笠 總艦	今夜ノ航行序列ハ第一戰隊ヲ先キトシ第三戰隊第四戰隊ト順 次二千米突ノ間隔ニテ航行ス六時ヨリ原速十海里正子ヨリ八 海里針路南五十九度東第五集点ニ向フ亦午早ハ第四戰隊 ノ後方十里西ニテ警戒ス(電報)

0168

6101

<p>全 八 一 〇 三 笠 千 歲</p>	<p>答午後二時頃ハ未タ機械ヲ取付ケ居ラス(電報) 午後二時發電「今迄ノ射撃ヨリ港内ニ入りタルモノト迄イク(電報)</p>
<p>全 八 一 二 〇 千 歲 三 笠</p>	<p>今迄ノ射撃ハ良好ト認ム港外ニ落チタルモノハ四五發ニ過キス 外ハ港内ニ入りタルモノト認ム(電報)</p>
<p>全 八 一 二 六 對 馬 三 笠</p>	<p>光ノ電「針路南ヨリ東」迄イク(電報) 答南五十九度東(電報)</p>
<p>全 九 一 〇 千 歲 三 笠</p>	<p>曙ノ連ノ負傷者一水兵一名一機関兵一名両名共重傷ナリ亦 連ノ一等水兵一名ハ面部砲創ニシテ即死ナリ露兵二名ハ何レモ 重傷他ノ捕虜ハ丁寧ニ捕獲シヤリ言語不通ニテ何事モ分 ラス(電報)</p>
<p>全 九 一 二 五 千 歲 三 笠</p>	<p>連ノ戦死者ハ一等水兵石黒次郎ハ同負傷者ハ一等機関兵梅 津久藏、曙ノ負傷者ハ一等水兵針ヶ谷重忠(電報)</p>
<p>全 九 一 五 一 三 笠 總 艦</p>	<p>明日西京丸佐世保ニ向ケ出發同船ニテ入院ヲ要スルモノヲ護</p>

送セヨ(電報)	後一〇一五三笠對馬 警戒航行中發光信号ハ嚴禁ス其艦尾燈ヲ点シ居ラストハ	信スレハ注意ス(電報)	全一〇一六千歲高砂 明日西京丸佐世保ニ向ケ出發日船ニテ入院ヲ要スルモノヲ護送セ	ヨ(電報)	全一〇一五〇三笠千早 本日午後五時過キノ電報分リ居ルヤ(電報)	全一〇一〇七常磐千歲 先ニ本艦ニ収容シタル負傷者ノ内曙一等水兵堀ヶ谷重忠ハ只今死	去セリ(電報)	全一〇一ニ八三笠千早 今夜ノ航行序列ハ第一戰隊ヲ先キトシ第三戰隊第四戰隊上順	次ニ千米突ノ間隔ニテ航行ス六時ヨリ原速十節里正子ヨ リ八海里針路南五十九度東第五集合点ニ向ノ亦千早ハ第一 四戰隊ノ後方十里ニアリテ警戒ス(電報)
---------	--	-------------	--	-------	------------------------------------	---	---------	---	--

101-2 101-0170

一信号ハ嚴禁ス其艦尾燈ヲ点シ居ラストハ  
報

二向ケ出奔同船ニテ入院ヲ要スルモノヲ護送セ

ノ電報分リ居ルヤ(電報)

ル負傷者ノ内曙一等水兵堀ヶ谷重忠ハ只今死

第一戦隊ヲ先キトシ第三戦隊第四戦隊ト順

隔ニテ航行ス六時ヨリ原速十節<sup>海</sup>里正子ヨ

六十九度東第五集合点ニ向フ亦千早ハ第

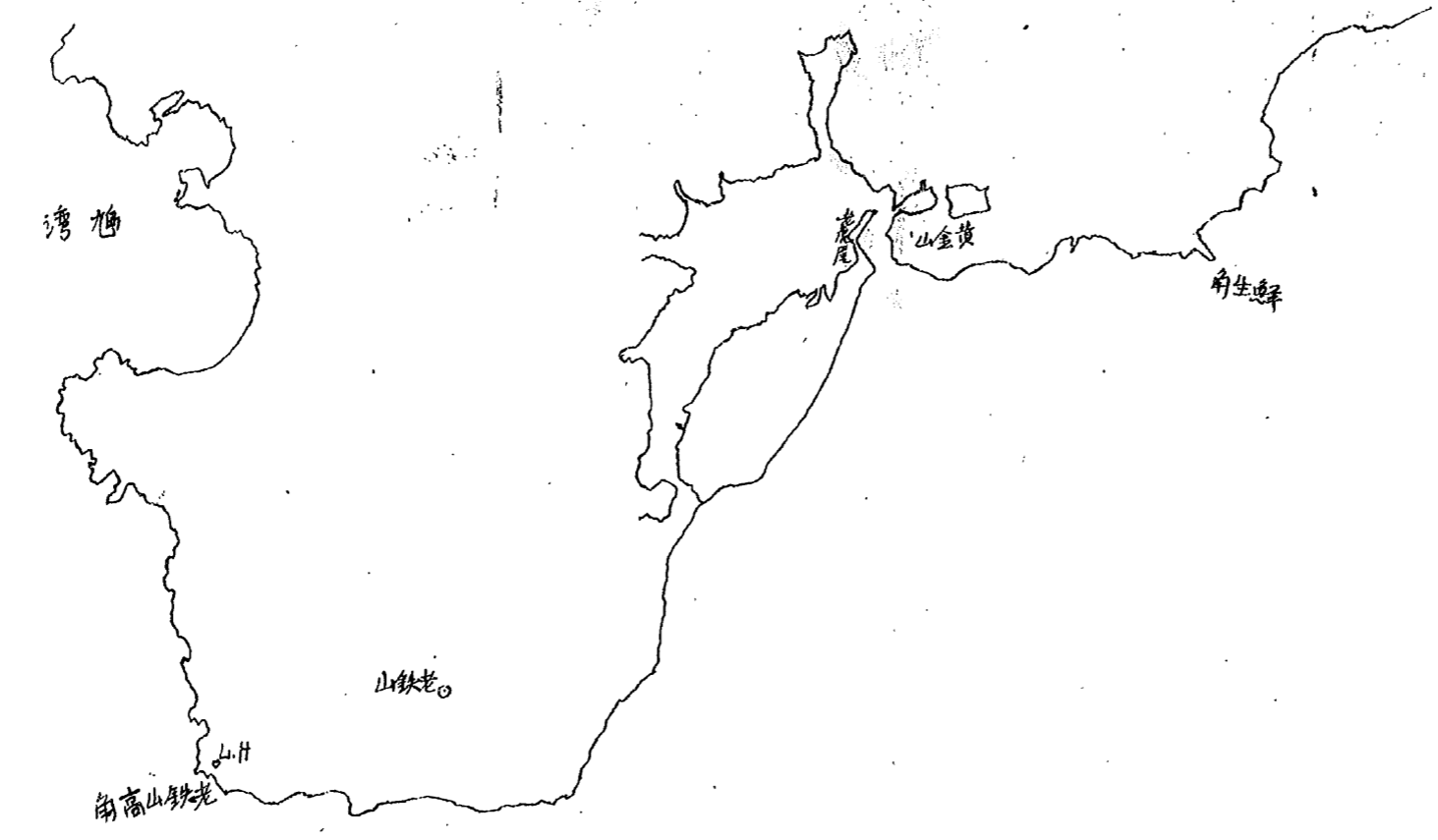
里ニアリテ警戒ス(電報)

101-2 101-0170  
自三十七年三月廿九日  
至三十八年三月廿九日  
射撃手位置  
艦跡圖  
一枚  
0171

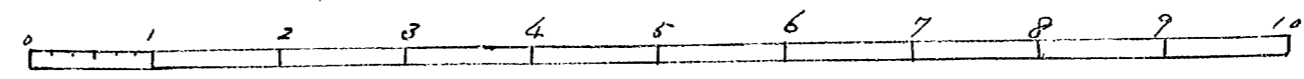
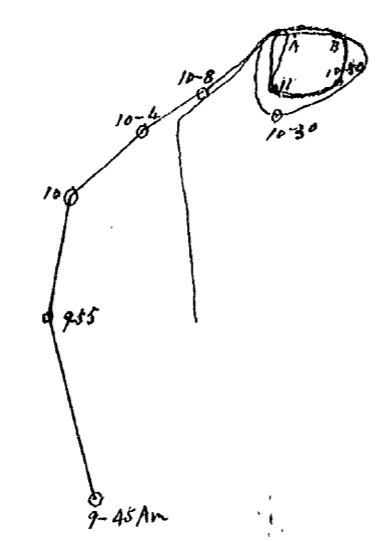
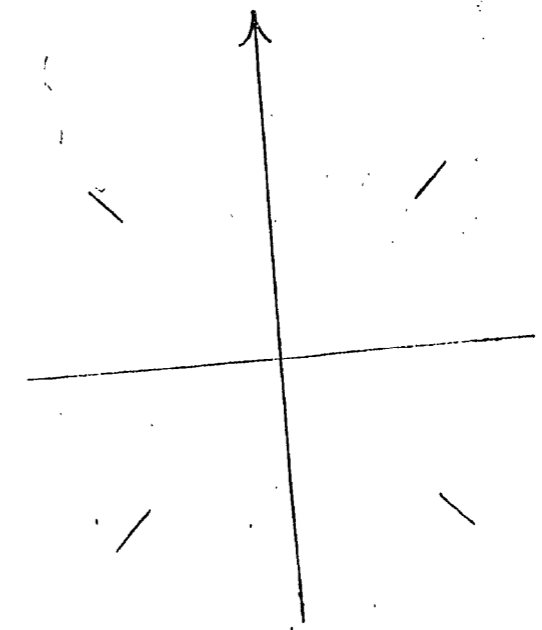


101-1

野山



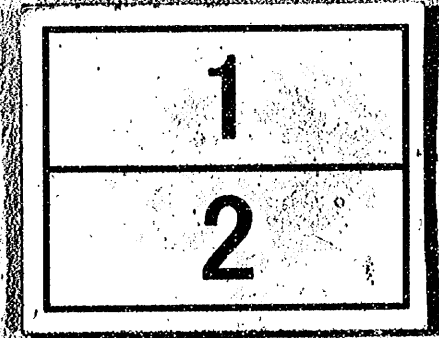
世七年三月十日  
旅順港間接  
射擊位置圖



0172

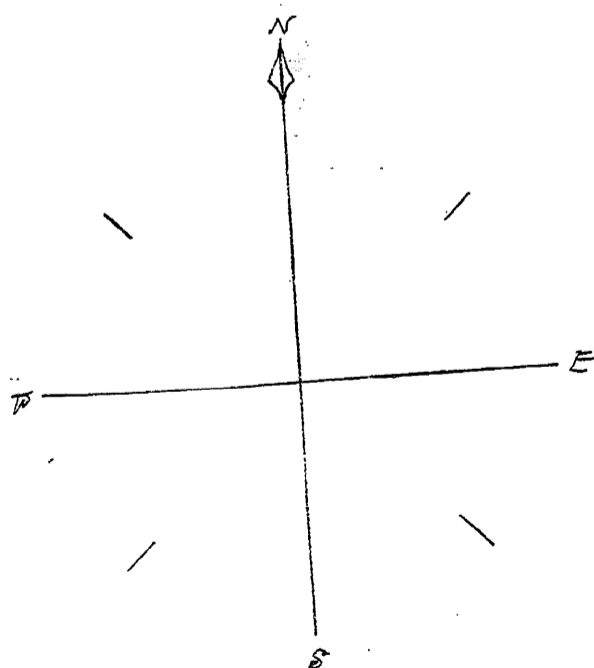
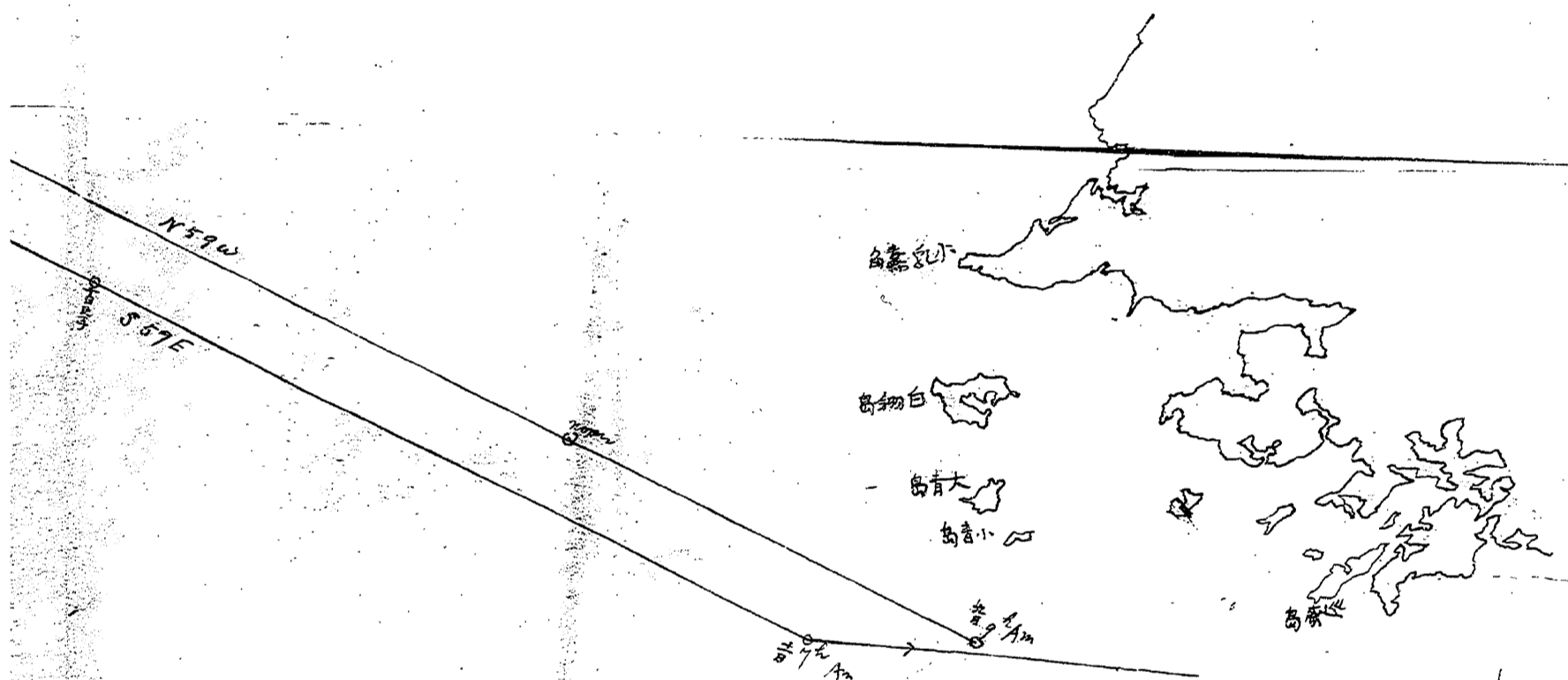


# 分割撮影ターゲット

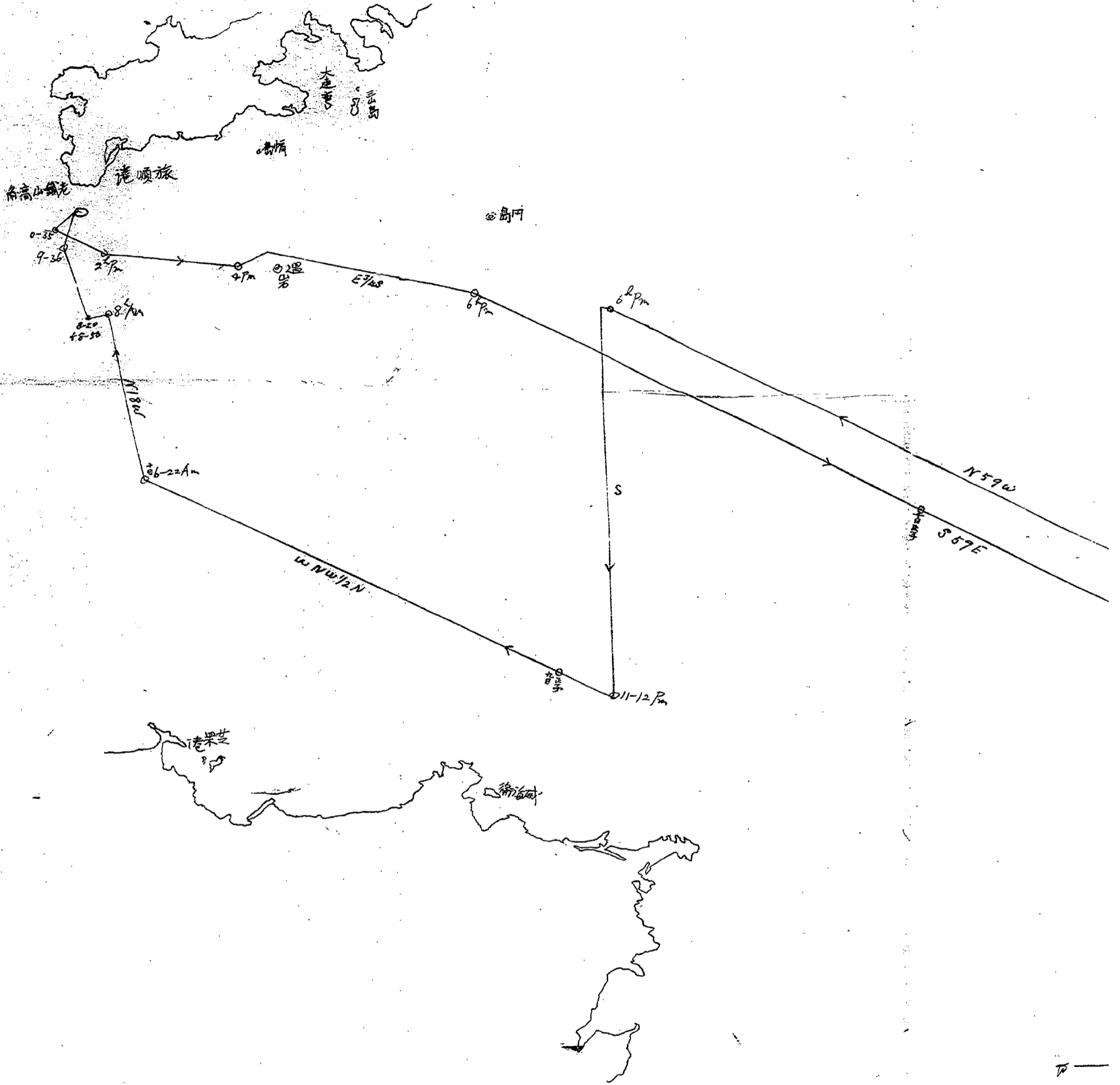
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0173  
0174

自世平三月九日  
至今 十日  
航跡図



101-2  
 三子丸  
 船



64 102

三月廿  
附録第二表

戦闘詳報第三號附録  
軍艦敷島兵器消費表

種	區分	種				電氣火管	伊集院信管第一號	常裝藥	拾貳吋後裝安砲
		榴彈	榴霰彈	霰彈	火管				
		榴彈	榴彈	榴彈	/	/	/	參貳	
		榴彈	榴彈	榴彈	/	/	/	參貳	
		榴彈	榴彈	榴彈	/	/	/	參貳	
		榴彈	榴彈	榴彈	/	/	/	參貳	
合計		參貳	參貳	參貳	參貳	參貳	參貳	參貳	
記事									
事									

0175

考 備						

0176

18

司令長官

参謀長

参謀

副

85

富士

東京海軍 100号

別紙新聞譯報提出状也

昭和三年三月十日

富士艦長 松本 和

英艦司令長官 藤田 平郎 殿



海軍省 第二〇八二二

海軍

0177

三月 十日 軍艦富士 戦闘詳報

明治三十七年  
三月十日

於第二集合兵富士艦長松本和

一晴天ナリシモ地平濛氣アリ遠物ノ織別困難南風力一乃至二  
 二運動 午前八時五分停止漂泊九時四十分航行旗艦ノ通  
 跡ヲ進ム原速十節針路不定命ニヨリ檣樓ニ將校見張  
 ヲ置ク午後零時二十分開距離トナス今三十分戦闘旗ヲ  
 揚ゲ戦闘部署ニ就カシム今五十一分三笠発砲今五十三分朝  
 日發砲本艦ハ零時五十七分ニ至リ発砲ヲ始ム豫定ノ如ク  
 海岸ノ人家ヲ照準セシノ射距離一万二千八百米突艦ノ  
 速力五節一時豫定方位ヲ過キタルヲ以テ打方ヲ中止ス今  
 時ニ敵砲台ヨリ発砲三笠朝日其ノ位置ヨリ回転ヲ始メ  
 タルヲ以テ本艦ハ直チニ汽機ヲ停止ス旗艦ヨリ岬端ヨ



ヨリ出ツベカラズ其ノ位置ニテ打テノ信號アリタルヲ以テ汽  
機ヲ後退シ左舷ニ回頭海岸ニ平行シ汽機ヲ停止シテ  
海面ヨリ得タル東港中港心方位ニヨリ之レニ對スル  
海岸ノ岩角ヲ照準シ一万二千八百ノ射距離ヲ以テ打方  
ヲ始ム時ニ一時三十三分ナリ一時三十分イ速ヲ以テ進行ヲ  
始ム一時三十三分豫定ノ發射終結休戰戰鬪旗ヲ卸ス  
一時五十二分旗艦ノ通牒ニ入ル射擊中老鉄山左側ノ山側  
ニ露人教名出沒シ監視セル如キモノヲ見タリ  
三水艦一、故障ナク死傷ナシ

87

砲種		區分		彈種		合計		記事	
十二甲安砲	四個	徹甲榴彈	四個	鍛鋼榴彈	三個	合計	三個	戰鬥ノ際發射	右全
全常裝藥	三個								右全
全電氣人管	三個								右全内九個電路試驗爲用ノ
一精伊集院信管	三個								右全

軍艦富士兵器消費表  
三月十日老鉄山沖  
間接射撃

海軍

0180

16

副

104

副

103

海軍

進達

一、新開詳披等三脚

六、進達等北也

可也三月廿三日

乃島新長坂也

本行係長友東郷軍人等故



海軍

海軍

105

戦闘詳報

(第三報)

三月十日午前早晴 午後曇 淡霞陸岸ヲ掩フ

風力一 風向 南々西

戦闘時 寒暖計 四十二度

戦闘時 晴雨計 三〇・〇

一戦況

午前八時四十分初瀬ヨリノ信辨ニ反ヒ逆番陣單縦陣ヲ制リ次ヲ放艦ノ通跡ヲ進ム今四十五分放信ニ反ヒ南距島ト九分五十四分旗命ニヨリ檣樁ニ將校見張リ配ス今五十六分戦闘ノ部署ニ配シテ整備ノ後休憩セシム

九時四十分敵艦ノビツク陣及バヤーン陣ニ隻戦闘旗ヲ掲ゲ旅順口沖ニ向ヒ航進スモノ、ハキヲ認ム五十分初瀬ヨリ回転信辨ニ注意セヨノ信辨アリ五十二分初瀬戦闘旗ヲ掲ゲタカニ做ヒ戦闘旗ヲ上リ十時老鉄山南山

豫定射撃位置、近ツキ十二吋砲塔員及共降火薬庫員ヲ其位置ニ配  
 シ他員ハ上甲板上候宣ノ位置ニ居リテ戦況ヲ目撃セシメ豫定隊形ヲ持シテ  
 進ム十時十七分本艦第一回射撃ヲ開始ス距離一萬三千速力七理ニテ  
 四分ノ終ル十時三十分旗艦ヨリ爲レ得ル共艦ハ一萬四千内外ノ  
 射距離ヲ射撃セヨト四十分夫鉄山頂ヨリ燈台ノ背作ノ山頂ニ至ル  
 迄服裝整一ニ陸兵ヲキ着所々多敷出現セシテ射撃セハ有効  
 ト思量シ左舷六吋砲ヨリ鍛鋼榴弾一発ヲ発射セシテ直ニ離散  
 逃走ス四十分第一回射撃ヲ開始シ四十分之ヲ終ル射距離一萬三千  
 五百速力四理十時五十九分旗艦ヨリ一門ニ付キ四発発ヲ増加セヨト此頃  
 敵艦ハ漸次退去シテ十時十二分第三回射撃ヲ始メニ十分  
 之ヲ終ル射距離一萬四千、琢城停止、十八分旗艦ニヨリ黄金山砲台ヨリ  
 本隊ヲ狙撃レワヤリ成ル可キ東方ニ行リ勿レト今三十分敵ノ齊発セシ  
 釋丸三発本艦左舷艦首四米突ノ所ニ落リ三十分旗艦ニヨリ之ヲ打テ

106

終ル積リニ付キ隊心可ク打々終ル様ニナセト之ヨリ艦列ヲ解キ逆番隊順  
 ニ單獨射撃位置ニワリ十一時四十六分再ビ山原ニ群聚セル陸兵ノ聲  
 モノ出現セシテ我左舷十二斤砲ヲ以テ鍛鋼榴彈ニ發シ放ツ山原ノ群  
 兵皆逃散ス零時十七分本艦射撃位置ニワキ停止シテ右舷側ヲ以テ  
 第四回射撃ヲ始シ三十分之ヲ終ル射距離一萬四千茲ニ於テ今ヲ豫定射  
 撃ヲ結了シ鞆岡旗ヲ下ス旗信ニ從ヒ旗艦ノ通跡ノ入り第一  
 小隊射撃中旅順口中ニ徘徊シ午在二時七分彈藥及砲具ヲ扱ノ  
 鞆岡終結

本射撃、於テ第一回ハ六發第二回モ六發第三回ハ九發 第四回ハ  
 十一發ヲ發射セリ

一 死傷及損害ナシ

一 士氣一般ニ靜當ニシテ毫モ平帯ニ異ナラス

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

0185

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

107

戰國詳報第三種附録

軍艦八島兵器消費表

砲種	區分	彈種		合計	記 事
		徹甲榴彈	鍛鋼榴彈		
安式十二平砲		一六個	一六個	三二個	旅團及海軍間接射擊使用
左 常裝 藥				三二個	左右
全 電 氣 火 管				三四個	左右 丸二個、不齊
安式十五連速射砲			一個	一個	老鉄出腹、眼視、敵兵、射、棄、放
左 常裝 藥				一個	左右
安式十二連速射砲			二個	二個	左右
左 常裝 藥				二個	左右
艦砲 電 氣 火 管				三個	左右
一 彈 伊 集 院 信 管				三三個	老鉄出腹、眼視、敵兵、射、棄、放

0186



二 郷伊集院信管

二 佃

十 五年 地 使用

0187

軍令部



# 第三戰隊對敵行動報告

於海軍省三月十日  
出羽第一艦隊司令官

聯合機密第八三三號 聯合艦隊司令部より 當隊(十歳、高砂、常盤)ノ機リタル  
行動左ノ如シ

三月七日午前十時三十分、原速十三哩、老鉄山ニ直向ス、五時三十分、  
敵第一戰隊一電逐隊ヲ奔見ス

七時五十分、機密方面ニ方リ、砲声ヲ聞ク、五時四十分、旅順口沖ニ駆逐艦五隻ヲ  
認メ、其時老鉄山ヲ距ル約二十哩

七時五十分、原速十五哩  
八時五十分、右驅逐艦内四隻ハ、我第三驅逐隊ニシテ、薄雲東雲ハ東方ニ連  
瑞苗方ニテ、敵ノ駆逐艦(ステレシナ)ヲ攻撃スルヲ認メ、敵駆逐艦ニ

二台、烟ヲ揚ク、陸上砲台ヨリ我駆逐艦ニ向テ盛ニ砲撃ス  
八時五十分、我第三戰隊ハ、逆驅逐隊ノ負傷者收容ノ為メ停止スルヲ見ル

八時五十分、原速十三哩トシテ、敵駆逐艦三隻ヲ攻撃ス、其戰ニ共ニ隻ハ今連  
八時五十分、薄雲信号ヲ、手前時早ニ敵駆逐艦二隻ヲ砲撃ス、其戰ニ共ニ隻ハ今連

八時五十分、捕中  
八時五十分、負傷者名アル者信号ヲシテ、常盤ニ収容セシム

八時五十分、人員ヲ敵駆逐艦ニ派シ、我軍艦旗ヲ揚ケ、之ヲ引申ス、其時盛ニ敵砲  
台ヲ砲撃ス

八時五分高砂ヲ列ヲ解カシメ鳩濱ノ偵察ニ赴カレム其航行中九時より十五分  
 間高砂ハ二万二千ノ距離ニ於テ城頭山砲台ヨリ烈シク砲撃セラレ約二十発ハ同艦  
 附近ニ落下セシモ幸ニ一発モ命中セザリシ  
 敵艦ハウチツク港外ニ出テ来リ南航ニテ我艦逐艦ニ向テ  
 八時五十分敵砲台彈丸四発(約七七連)連続我艦上ヲ超過シ百五十乃至二百米  
 突ノ処ニ落下セ敵砲台ヲ距ル約二万  
 右ニテ直ニ原速十五哩トナシ南方ニ向テ敵艦ヲ彈着ヲ避ク九時原速十三哩トナシ南  
 東ニ飛ス其時曙ノ負傷者收容中ナリレ常盤側ニ敵艦數艘落下ス依テ同艦  
 九時七分ハウチツク港外ニ退ク  
 九時五分敵艦逐艦ヲ曳キタル連ノ曳索切断シ曳行見込ナシ依テ直ニ我軍  
 艦旗ヲ下スヲ見ル其時敵艦ハウチツク及砲台ヨリ盛ニ砲撃ス連ハ大波ト敵艦ヲ蹴シ  
 九時三十分敵艦ハウチツク港外ニ出ツ  
 六時四十五分薄雲ニ捕獲艦ヲ破壊スヘキヲ余ス時ニ敵艦ハウチツク及ヒルウチツク  
 シニ獲我艦逐艦ノ手中ヨリ捕獲艦ヲ奪ハントシ連甚ク危険ナル状  
 況ニ突ルニ千歳之ニ近ツキ掩護セシト盛ニ黄金山砲台ヨリ砲撃スルヲ以テ  
 捕獲艦ヲ曳行スルコト不可能ナルヲ信シ右ノ八島ヲ下セリ  
 八時五十分第四戦隊戰鬥機ヲ揚ケテ旅順沖ヲ旋迴運動シ後ニ三山島  
 方面ニ向ヒ去ル  
 十時三十分第五戦隊第二小队初瀬敷島ハ島ノ順序ニテ老鉄山ノ南方  
 方面ニ間接射撃ヲ開始ス

113

十時五十分敵駆逐艦「ステレグリン」艦尾ヨリ沈没ス其位置概畧老鉄山燈台ノ南東七哩港ヨリ北ニテ六哩半ノ所

十時五十分老鰐虎尾造船廠附近ニ大火災起ル敵艦「ウヰツシ」港内ニ遁入ス

十時五十分敵艦「グヤー」港内ニ遁入ス

十時三十分三輝港内ニ落下ス

十時四十分黄金山砲台ニ飛命中爆裂ス

十時四十分陸上停車場附近ニ整爆裂ス

十時五十分砲撃艦ノ砲影ヲ東方ニ顯ハス毎ニ各砲台ヨリ砲撃スルヲ見ル常盤駐艦ノ死傷者及捕虜ヲ收容シ了ル便宜漂泊並的

死	者	重傷者
一	一	一
一	一	一
一	一	一

右射谷重忠午後十時死外ニ捕虜總六四名内重傷者二名

十時三十分黄金山砲台ニ白煙昇ル

十時五十分一彈ハ黄金山東方ニ墜ル港内ニ落下

十時三十分一彈炭油ノ庫ヲ撃テ黒煙盛ニ昇ル一彈港東側陸上ニ落下

黄金山砲台ヨリ發砲ス

十時三十分一彈黄金山東方ニ落下爆裂ス

十時三十分一彈港内ノ中央ニ落下

高砂鳩湾ノ偵察報告

鳩湾異状ハ先日砲撃ニ駆逐艦ハ元位置ニ於テ橋ト煙突トヲ頭ニシテ沈没シ  
土時四十分高砂ヨリ艦隊ト射撃艦ノ中間ニテラシメ信号連絡ノ任務ヲ持ツル  
正午第一戦隊第一隊三隻朝日富士順正間接射撃ヲ始ム  
零時三十分黄金山東方及西方三彈此落リ

一彈敵艦ヲノミツク駆逐艦ノ間ニ落リ

敵艦ハハイロンノウノウ及駆逐艦三隻港内ヲ徘徊スルヲ見ル

零時三十分黄金山ノ西岸ニ白煙昇ル

零時三十分黄金山砲台ニ命中ス

零時三十分砲車場附近ニ爆裂スルヲ見ル今時ニ老虎尾ノ南方ニ白煙昇ル

零時五十分黄金山砲台ヨリ發砲スルヲ超過首米突ノ所ニ落リ巨直ニ命中ス

依テサリ南方ニ射リ

一時三十分一彈港口内ニ落リ

一時三十分一彈黄金山西方ニ落リ

一時三十分三彈老虎尾ノ中央ニ落リ

一時三十分三彈港口内東側ニ一彈港内中央ニ落リ

一時三十分一彈港内敵艦砲台ニ落リ一彈港口内中央ニ落リ

一時三十分一彈黄金山南側海上ニ落リ

一時三十分一彈砲台ニ命中ス

一時三十分一彈港外ニ落リ



一、如キハ明カニ認メ得タルヲ以テ旅順口外又ハ陸地ノ外亦  
 現ハレシ部分ニ落下セシモノハモ遺漏ナキヲ信ス  
 右三十三發ノ約一半ハ前記スルカ如ク夫レノ大ナル損害  
 ヲ與ヒタリ加之港外ヨリ透視シ得サル港内各所ニ右三十三  
 發ノ外彈丸ノ約十餘發モ落下シタルコトモハ其奏効  
 非常ナリトヤ疑フ容レサル所ナリ  
 間接射撃ノ效果並ニ断業所見其他研究シ得タル  
 事項ヲ概括スルハ左ノ如シ  
 一、黄金山北斜面(石炭庫の)ニハ大火災起リタルモノ、如ク  
 黒焰ノ昇騰スルコト約一時間余  
 二、老虎尾造船廠大建築物ノ東隅附近ニ火災起リ  
 黒白ノ炎焰騰ル一時間余  
 三、水雷堂所附近ノ方面方リ層積セル白焰ノ騰ル

4/17

一 約二介間 (恰モ火薬庫ノ破リ衣ニタルカ或ハ碇泊艦ヨリ多量ノ蒸気ヲ逸出シセリカ如ク見ユ)

四 威遠砲台東方ノ低地ヨリモ右ト同様ニシテ稍々少量ナ

ル白燭騰ルヲ見ル

五 人字牆砲台ニ爆裂ニタル彈丸ハ構作物ヲ破壊ニタルモノト

見エ爆炎ノ量巨大ニシテ港口内ニアリタルハウヰツクバヤ

ト以外ニ砲艦等ノ艇休ヲ時見得ザルニ至ラシメタリ

六 停車場附近ニモ火火起リ須臾ニシテ止ム

七 港内軍艦碇泊場ニ落下ニタル彈丸ニシテ水煙ヲ揚

ケシモノ、老虎尾ヲ超ハテ見得タルモノ五六個アリ

タリ白黒ノ噴水奔騰シト快ヲ感ズ

八 黄金山砲台内ニ霰ハ確カニ命中ス

九 射撃ノ方法ト運動ノ如何ハ不明ナルモ第一小队ノ彈

着ハ概ニテ港外ニ落ケタルモノ少カリトガ如シ



十、当日ノ如キ敵彈ノ來ル少ナキ位置ヨリ行フ間接射  
 撃ニ於テハ各艦獨立運動シ速力ハ單ニ艦位ヲ  
 一ヶ所ニ保ツラ程度トシタル方射撃ノ効果大ニシテ  
 又時間短少ナルヲ信ズ射撃目的物ノ大ニ應ジ  
 土間接射撃ニ於テハ母癸少ニ定射距離ヲ変更ス  
 ルヲ有利ナリト信ズ  
 土水中ニ落下セル我砲彈ノマタハ爆裂セズ  
 其陸上ニ落下セル我砲彈ハ爆裂シタルモ黒煙ヲ出シタ  
 ルモノト白煙ヲ出シタルモノトニ種アリタリ  
 土彈着ハ見エサレバ爆裂シ御音車以然タルハ監視的艦  
 ニ於テ聞クモ凄シカリキ港内蟄伏ノ人負ハ必スヤ  
 非常ニ戦慄震駭シタルナラン  
 十五、敵驅逐艦三隻港口内ニ右往左行シ或ハ蒸

四

汽ヲ噴出スルモノアリタリ其舉動ヲ推断スルニ港  
内ニ爆裂スル彈丸ノ漣ニキテ避易シ港外ニ出テ来リ

タルナランカ

共、一万二千以上ノ距離ニ於テハ敵榴彈砲ヲ發射セス想

フニ此距離以上ノ距離ニハ達セサルナラン故ニ

万二千以上ニ於テハ榴彈砲ヲ顧慮スルニ及バズ

七、敵砲台ハ彈藥ヲ欠乏ヨ美ニタルカ或ハ類々タル對

敵ニ射撃法ヲ研究ニタルニヨルカ電モ監視ノ嫌

ナシ千歳ハ監視ノ任務ヲ充テラシメント欲シ可及

的港口ニ接近シタルニ其一万二千内外ノ距離ニ

リテ微速方ニテ航進スルカ或ハ停止スルヤ忽チ敵

加農砲台ハ射撃連發彈着向レモ良好ニシテ悉

ク艦附近三百米突内外ニ落下セリ常盤及高砂

高テ発射セルヲ比留何レモ然ヲサルハナシ

故敵加農砲台ハ決シテ輕視スハキモノニアラズ

六、アソコルドハ姿ハ見セサルシヨリ察スレハ二月二十五日損

傷修理中ナラシカ

九、ト年ガシハ港口ニ見エズ

二、報國丸ハ最初ノ座礁位置ヨリ外方(南方)約三四百米處

ニ引出シ船首ヲ外方ニシテホツクスルゾ、ゾ以上ヲ現

ハシテ沈没セリ

庄、仁川丸モ報國丸ノ約東方ニ碇ト烟突トヲ現ハシテ沈

没セリ

三、敵艦ステレグシチーハ漸次艦部沈降スルカ如ク見

エシガ其後部ノ水面以下ニ隠ル、ヤ否ヤ聯商ニシ

テステムヨ上ニ向ケテ沈没セリ

8 117

三月二十五日第三戦隊ノ追撃ニテ鳩濱北澳ニ破壊シ

タル敵駆逐艦今尚ホ同位置ニ沈没シ居リ(高砂

偵察報告) 老虎尾ノ燈台ハ白色ヲ塗換テ他ノ色ニ變セリ

之ヲ要スルニ本日決行シタル間接射撃ノ効果ハ密ニ

敵ノ諸構造物ヲ直接破壊シタル損害ニ止マ

ラス間接ニ敵ノ兵氣ヲ沮喪セシメタル威力ハ實

傳大ナルベキヲ確信ス

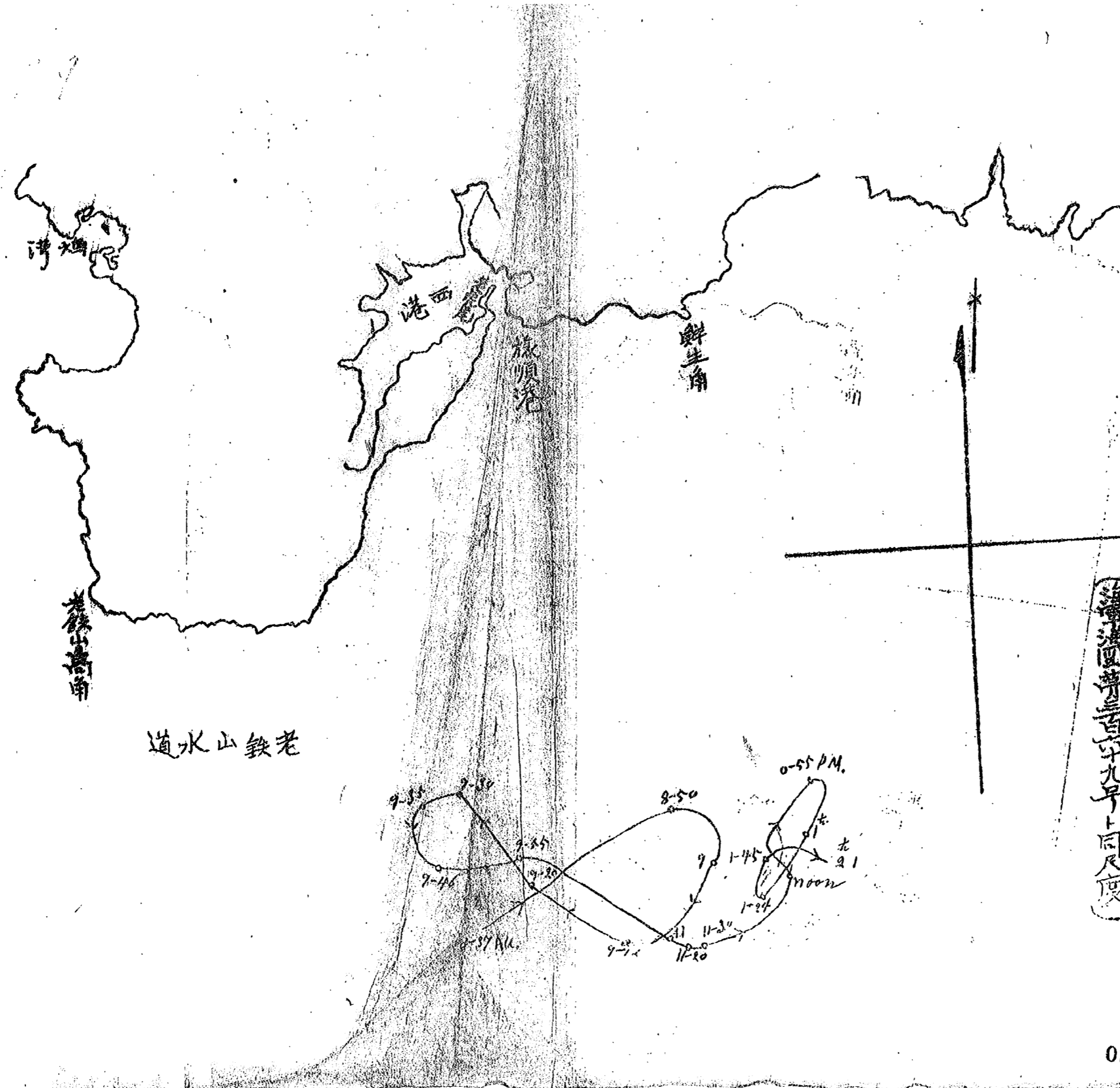
0199  
119

明治三十七年三月十日  
子崙對敵運動艇隊

千人  
毎人  
我軍に對し  
カキマシ  
シテ我軍  
ハハハハハハ  
ハハハハハハ  
ハハハハハハ

此所  
我軍に對し  
ハハハハハハ  
ハハハハハハ  
ハハハハハハ

CT39



明治三十年五月廿日梅嶺十級村敵運動航跡圖

海軍圖書室九号上自尺度



0200

可平綴長



海洋嶋及裏長山列嶋情報(明治三十七年三月十三日)

第三戰隊(千歳高砂常磐)及第二驅逐隊(雷龍電)偵察シタル情報左ノ如シ

第一海洋嶋

一 象登島内ノ状況 大体前回(二月廿七日)ノ偵察ト異ナル所ナシ

二 堆積セル煉炭ハ半ニ燃燒餘ハ土民悉ク之ヲ盗用セリ

三 前回偵察後魯國艦艇ノ入港シタルヲナシ

附記 土民若シ魯人ノ設営セル棧橋浮標等ヲ毀損スルコトアラハ嶋民全般ヲ嚴罰ニ處ス(キ)旨告示シ置ケリ

第二 裏長山列嶋

一 各嶋内ニ當時魯人ナシ

- 二 曾人ノ通信所其他ノ設備皆無
- 三 二百前以來魚目飛入港シタルナリ
- 四 山頂各所ニアル三角標ハ曾人測量際樹立セルモノナリ
- 五 山頂各所ニアル旗竿ハ清人樹立セルモノニシテ出入港ノ目標其他信早前ニ供スルモノナリ旗竿ノ側ニハ番小屋如キモノアル所アリ(一説ニ依レハ是又露人ノ設立シタルモノナリト云フ)
- 六 嶋内各所ニ散在スル大砲ハ海賊ノ防禦用ナリ砲種清國製ニシテ旧式ナリ
- 七 嶋内牧場多シ鶏豚多シ
- 八 大ナルジャマシヨ多シ又附近ニ材木ヲ搭載スルヲジャマシヨノ通航スルモノ多キヲ見ル



120

18

高砂

副官

参謀

参謀

東郷

司令官

高砂振務部第七號

三月十三日 連達

鳩湾偵察報告

三月十日午前八時四十九分、旅順港口より南に東七哩半、位置に於て旗艦千歳より左ノ信号命令ヲ受ケ

「鳩湾内ノ偵察シ可成速ニ歸リ報セヨ」

依ラ直ニ右方ニ回頭列シ高レ針路約西速力十六哩トナシ任務位置ニ進航ス、八時五十九分城頭山砲台ヨリ發射シタル彈丸我左舷艦ニ近ク落下ス、少時ニシテ九時七分ヨリ九時十五分ニ至ルノ間同砲台ヨリ約北方ニ距離約一万二千米處ニ見ル、時同砲台ヨリ發射セル彈丸約廿七發(廿七冊彈丸)何レ

二ノハ号ノ一

0203

我近傍に落下し遠キモ五六十米突近キ十米  
 突許ニシ頗ル危険ヲ感シテ、九時十三分危険  
 ヲ避ケレ為左方ニ針路ヲ変シ約南西ニ進ム一七  
 分時ニシテ再ビ右方ニ變針シ老鉄山高角ヲ右  
 方ニ進見テ進ミ十時鳩湾内ヲ望見シ得ルノ位  
 置ニ達シ漸次速力ヲ減シ十哩トシ十時廿分ニ至  
 リ敵ノ沈没駆逐艦ヲ東方ニ進右ノ距離ニ明  
 瞭ニ視察シ猶モ同湾内外状態ヲモ察知シ得ル  
 ヲ以テ左方ニ轉航回轉シ歸路ニ就ク(速力十六哩  
 ニ増加ス)歸途老鉄山南側ニ於テ第一戦隊第二  
 小隊ノ間接射撃施行中其第一小隊ノ之レヲ約  
 二哩南方ニ航行セルニ逢ヒ十一時旗艦三隻ニ鳩  
 湾内異状ナレ先日ノ駆逐艦沈没ノ信号報告

421

ヨナレ十一時三十分旅順港口ノ南方約十里ノ處ニ  
於テ旗艦千歳ニ會レ左ノ信号報告ツナス

鳩湾内異状ナレ先日ノ駆逐艦沈没(以上手旗信号)

鳩湾内異状ナレ先日ノ駆逐艦ハ元ノ位置ニ於テ

櫓ト烟突ノ頭ヲ少シク出シタリ伏沈没レ居レリ

(以上手旗信号)

敵駆逐艦沈没ノ状体並ニ其沈没位置艦首方

向鳩湾附近ノ航跡ハ別図ニ示スカ如シ

鳩湾附近別ニ異状ヲ認メス敷敷水雷ノ有無ハ

明カナラズ又同湾附近通航ノ際陸上砲台ヨリ砲

撃セバ本艦鳩湾外ニ達スルニ先カチ千早全處

ヲ北方ニ航走スルヲ見タリ但シ全艦ハ雙頭湾附

近ヨリ南方ニ引返セリ

右報告候也

明治三十七年三月十日

北第回集令点

高砂船長石橋



第一艦隊司令官出羽重遠殿

122  
沈没疑

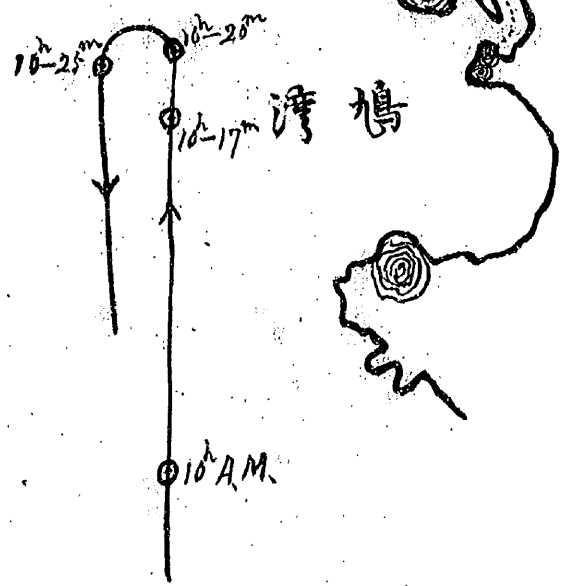
0206

2122

沈没駆逐艦  
外見  
最干潮ノ際  
見タレ圖  
満潮ノ時ノ楕  
外見ノサルモノト  
認ム



沈没艦位置  
其艦首方向  
約南東  
本艦航跡



0207

1877

司令長官

副官

常磐秘第三九號三月十一日

三月十日旅順港外海軍艦隊詳報

一時三戰隊編入中軍艦常磐

明治三十七年三月十日午前七時本艦先鋒

南約二海里在、前夜以來積艦千歳、徒

千歳高砂常磐、順序、以、航、進、當、日

本艦、任務、戰隊、極、必、要、八、三、号、命、令、具、奉

旅順港、西、道、直、地、点、在、一、戰、隊、同、接

射擊、詳、着、在、

午前七時三十分千歳、令、依、連、カ、ソ、ナ、三、即、

尋、十五、節、旅、順、港、外、向、

午前七時、本、艦、一、驅、逐、隊、老、鐵、山、方、向、

常、艦、來、一、戰、隊、方、向、見、此、際、前、方、遠、カ、

08



一艇、白煙ヲ揚グ、望見ス  
 午前、時六分、餞頭止砲台、砲火、奉カケテ見  
 尋、我兵、駆逐隊、敵、駆逐艇一隻、田繞  
 ア、即、晨、白煙、奉カケシ、一艇、此敵艇  
 航速力、失ヒ、蒸氣、漏泄シ、ア、知、餞頭山  
 砲台、我兵、三駆逐隊、向、登、砲、知、餞頭山  
 午前、時、十五分、漸、近、敵、駆逐艇、我、帝國  
 軍、艇、旗、揚、見、暫時、我、駆逐艇、連、之、赴、我、索、取、我、來、ラ、シ、曙、之、接、護、シ、  
 此際、兵、三駆逐隊、司令、我、艇、薄、雲、及、東、雲、  
 手、前、道、信、号、見、ク、  
 午前、時、四十分、我、香、艇、向、曙、員、集、者、  
 収、容、七、号、信、号、依、本、艇、停、止、漂、泊、曙、





午前九時十分敵艦ハウヰワリ港内より出テ来リ出テ  
 沿ノ先鋒ノ方角ク此時連捕獲トシテ駆逐艦ヲ  
 其ノ先頭ニ追テ其ノ先鋒ノ先頭ニ追テ其ノ先頭ニ追テ  
 此捕獲トシテ敵艦逐艦後ニ至リ沈没セテ敵艦ハウ  
 イツシク来リ連捕獲トシテ其ノ先頭ニ追テ其ノ先頭ニ追テ  
 ハウヰワリ港内より出テ来リ出テ来リ出テ来リ出テ来リ  
 乗テ敵艦ハウヰワリ港内より出テ来リ出テ来リ出テ来リ  
 共ニ岸沿ハ東西航行スルヲ見ル午前十時頃至リ  
 午前十時頃至リ我軍四戦隊族噴港外ノ東  
 航シテアリ此敵艦ニ襲ハシ全隊一回転運動  
 ン執リテハウヰワリ港内より出テ来リ出テ来リ出テ来リ  
 距離頗遠大キクモ如シ然レトモ其射  
 午前九時十分風波高ク大暗ニ到底本艦ニ

126

播附ケレ得依ラ本証ノフカフターレヲ下レヤ時ニ本  
 曙ノ負傷者一名ノ収容レリニ其氏名尤如シ  
 曙ノ乗組 一等水兵張ヶ谷茂實  
 午前十時十分第一戰隊ハ隊老鐵山ノ南  
 道ニ向接射撃ヲ開始スルヲ認ム  
 午前十時十分驅逐艦健本艦傷ニ來リテ命  
 ニ依リ其死傷者及捕虜ヲ本艦ニ交付セントス本艦  
 直ニカッターレシカシ之ヲ収容ス之ヲアリシル午前  
 十一時四十分ナリ其戰死者及負傷者等氏名尤如シ  
 戰死者 健榮組 一等水兵石黒治郎八  
 負傷者 同 一等橋本梅津久藏  
 捕虜 下置ラシキモノ 負傷者 一名  
 同 三名

0212

此卒三人内一人ハ負傷者ナリ  
 午前中時三十分頃敵ニ砲巻<sup>ハ</sup>入<sup>リ</sup>  
 午前中時千歳ヲ捕虜シテ<sup>ハ</sup>寧<sup>ニ</sup>取扱ヒ正確  
 ナル情報ヲ得<sup>シ</sup>ト<sup>モ</sup>努力メヨト<sup>ノ</sup>信号アリ<sup>且</sup>其令<sup>ハ</sup>如<sup>シ</sup>  
 向<sup>テ</sup>所<sup>ア</sup>ク<sup>レ</sup>シ<sup>テ</sup>言語<sup>ハ</sup>不通<sup>ノ</sup>者<sup>メ</sup>要領<sup>ヲ</sup>得<sup>ス</sup>漸<sup>ク</sup>  
 ニシテ其衆<sup>細</sup>シ居<sup>タ</sup>リ<sup>且</sup>名<sup>ハ</sup>フ<sup>ス</sup>テ<sup>レ</sup>ク<sup>イ</sup>レ<sup>サ</sup>レ<sup>ル</sup>ナ<sup>リ</sup>  
 レコト<sup>ヲ</sup>知<sup>ル</sup>得<sup>タ</sup>リ<sup>且</sup>其他<sup>因</sup>函<sup>ヲ</sup>示<sup>シ</sup>露<sup>字</sup>ヲ示<sup>ス</sup>  
 シタ<sup>ル</sup>事<sup>ヲ</sup>知<sup>ル</sup>得<sup>タ</sup>ル<sup>事</sup>項<sup>尤</sup>ノ如<sup>シ</sup>  
 一 旅順口砲臺母<sup>ニ</sup>バ<sup>ラ</sup>ガ<sup>レ</sup>ア<sup>ラ</sup>テ<sup>ハ</sup>修理<sup>工</sup>事<sup>中</sup>  
 一 今<sup>ノ</sup>戦<sup>闘</sup>力<sup>ヲ</sup>失<sup>ヒ</sup>タ<sup>リ</sup>ト<sup>モ</sup>ウ<sup>サ</sup>ニ<sup>ツ</sup>ガ<sup>レ</sup>ウ<sup>イ</sup>テ<sup>ハ</sup>「<sup>ハ</sup>ヤ<sup>リ</sup>ニ  
 「<sup>エ</sup>ニ<sup>セ</sup>イ<sup>」</sup>ワ<sup>リ</sup>ヤ<sup>グ</sup>「<sup>コ</sup>レ<sup>」</sup>ツ<sup>」</sup>及<sup>ビ</sup>駆<sup>逐</sup>式<sup>長</sup>ナ<sup>リ</sup>  
 一 損傷<sup>シ</sup>テ<sup>ハ</sup>軍<sup>艦</sup>ハ<sup>多</sup>ク<sup>ナ</sup>リ  
 一 アスコー<sup>」</sup>目<sup>下</sup>旗<sup>艦</sup>ナ<sup>リ</sup>

126

マカロフ中将已ニ到着シタルヤノ疑アリ何トナレバ彼  
 捕虜言中マカロフド、運リ指シ將旗ヲ運キ  
 コレマニダーインカーフマカロフト呼ビタルシ以テナリ  
 蹕跡ヲ失ヒタル駆逐艦ニ隻ニ聞シテ言及セズ  
 午前十一時頃、金山砲台及饅頭山砲台、  
 我第一戦隊間接射撃ヲナシマカレシニ向ヒ時々  
 砲砲スルヲ見ケリ  
 午前十二時ニ五分、我名譽ナレバ員傷者  
 ニ厚ク慰問、詔ヲ傳ヘヨ、出羽司令官ヨリト、信子  
 ニ接シ其令ヲ如クス  
 正午頃、ホルトワト覺シキ、我艦一隻東港、西港、  
 移ルニ始見セリ  
 午後零時五十分、敵弾一個千歳ヲ起シ、其友

0214

村艦側ニ近ク落下スルヲ見

午後一時頃我第一戦隊ハ其第一

小隊代リ老鐵山南方進ニ間接射撃ヲ行フ

見此際海陸砲声頗盛ナリ

午後三時砲戦止ニ導テ千歳ニ從ヒ東航シ秋

港外ニ去ル

此日間接射撃砲着ヲ本艦ヲ見タリ所ハ老

確力ニ障着シ本艦ヲ見タリ所ニ在リ教得

内 教 二十三発

黄金山砲台中ニ爆発スルヲ見 二発

港内碇泊ニ敵艦群中落下シタリ 五発

港口東側岸辺及其附近水面ニ落下シ



27

夕八毛ノ

十六卷

右外水艇ヨリ見能クサリシニ多クハ黄金山  
砲台内面又ハ東港沿岸等ニ落下シタルモノ  
ト想定ス

此日午後零時四十分頃水艇ヲ見タル港ヨリ見  
取図別紙如シ尚旗團部ニ聞スル報告ヲ添付ス  
右及報告書也

明治

三十七年三月十日

常盤艦長海軍大佐吉松茂郎



第三戦隊司令官海軍少将山本重遠殿

附記

水艇以卷シタル頁傷者、以曙来組一等水兵

張々茂實三月十日午後十時六分死

破船

0218

0217

三月十日午後十時六分死

028  
三月十日午後十時六分死  
敵艦存想定不  
0217

0218

0217

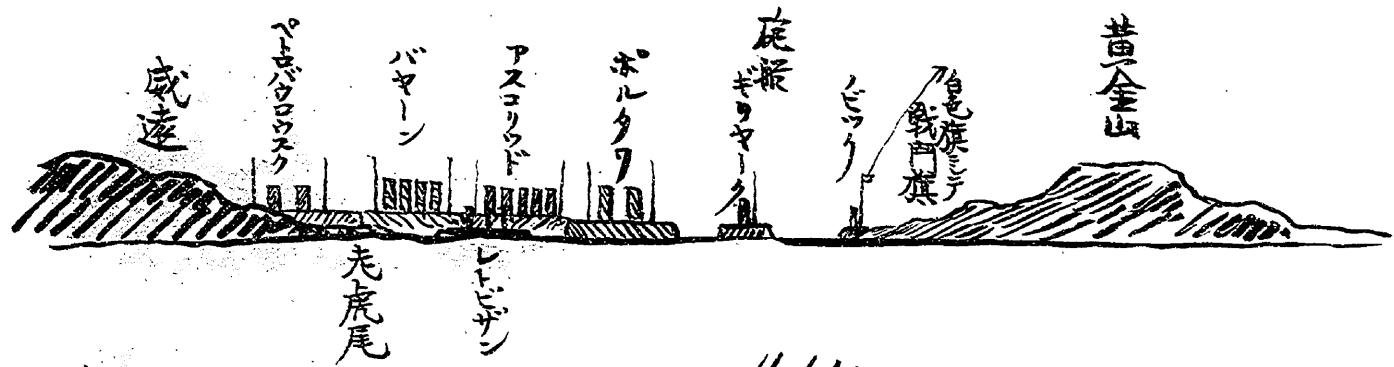


124



明治三十七年三月十日旅順港外より港内ニ碇泊セル敵  
飛左ノ如シト想定ス

側面圖



平面圖



ハヤーン並ニギンニシテ港外航行ノ後  
港内ニ入りテ碇泊セルモノナリ

129



軍艦常盤機關部旅順口外戦闘報告

一明治三十七年三月十日午前七時本艦は元釜山下南方十哩地矣  
 三時當時原速力九十一回轉(十三節)ニシテ旗命ニ依リ急鐘  
 十二個(艦力毎平方吋百四十五磅)ヲ使用シツテ午前七時五十分原  
 速力百〇五回轉ニ變シ今八時頃より旅順口外ニ漂流シタリニ  
 船ノ操縦上突矣停止より百余回轉ニ急轉シ或ハ高速  
 力より停止ニ極ル者回轉ノ變化頻々極リナリシモ遺憾  
 ナク遂行シ而カモ何等モ機主鐘等ニ故障ナシ

今日午後二時五分原速力八十四回轉ニ既進今六時旗  
 命ニより六鐘ヲ消スニ二鐘ヲ保留候後中ニ他ノ回轉ヲ

0220

以少原速七十回轉手航進 集合地に向

一今日午前七時より午後二時五分迄の間に燃料を消費せず

右炭 兼炭 二十三噸五十五斤

内部油 十三俵 外部油 七俵

一移動中村長部全般に注意を要す

一三月七日八時浦出港以來集積形の雷五個が朝夕不絶に轟

雷を補充し先全艦力を保持を様勵り

右及板告也

明治二十七年三月十日 常陸船長 伊達 只吉

常陸船長 松野 太郎